

みかさニュース特別号

2016年度 カトリック横浜教区平和旬間を終えて

カトリック横浜教区平和の集い

8月6日（土） 於 カトリック横須賀三笠教会



著作者:Adam Kirkham

横須賀から平和を考える
— 街と基地と教会と —

【2016年8月6日（土） プログラム・タイムテーブル】

10:00～11:20 フィールドワーク

▶横須賀中央駅集合の方の順路 : ドブ板通り → ヴェルニー公園 → 三笠教会

▶JR横須賀駅集合の方の順路 : ヴェルニー公園 → ドブ板通り → 三笠教会

ドブ板通り案内 : ドブ板通り商店街振興組合 理事長 越川昌光 氏

ヴェルニー公園案内 : ヨコスカ平和船団 おむすび丸船長 市川 平 氏

11:30～12:20 昼食（各自ご持参下さい）※当日教会信徒館を昼食会場として開放

12:30～12:40 講演① 正義と平和協議会会長談話発表（河野 淳 神父）

12:40～13:10 講演② DVD上映・解説（長浜つぐお 氏）

13:10～14:15 講演③ 講演（新倉裕史 氏）

14:30～15:30 ミサ（主司式：梅村昌弘 司教）

2016年「平和旬間」にあたって ～平和を自分たちの足元から～

日本カトリック司教協議会 会長談話

日本カトリック司教協議会は、35年前の1981年2月25日、聖ヨハネ・パウロ二世教皇が広島でなされた力強い「平和アピール」に応えて、翌年から8月6日～15日を「日本カトリック平和旬間」と決めました。今年で35回目を迎えます。

この10日間を平和旬間としたのは、広島と長崎の原爆記念日および終戦記念日が集中しているからです。言うまでもありませんが、平和のために祈り、平和について学び、考え、平和のために活動することは、決してこの期間に限定されることではありません。6月23日の沖縄「慰霊の日」を忘れてはなりませんし、一年を通して平和のために祈り、平和について学び、考え、平和のために必要な行動をとるよう努めなければならないのです。しかし、特にこの期間を、いつもより有意義に過ごすことが望まれます。

シリア内戦、宗教的原理主義者などによるテロ活動、資源開発の利権にからむ武力紛争、覇権主義的威嚇行動などによって、世界の平和は壊され、絶えず脅かされています。子どもや女性を含む、おびただしい数の人が殺されあるいは負傷し、避難を余儀なくされてふつうの生活と人生そのものを奪われています。テロ事件は、欧米の主要都市でも、イスラームの都市でも起こっています。日本人も多数犠牲になりました。テロはもはやいつ、どこで起こってもおかしくない状況です。だからこそ、東西の大国が冷戦ではなく友和に向かい、欧州連合（EU）の平和の精神が広まり、東アジアの緊張がなくなるよう祈りたいと思います。オバマ米大統領は、7年前プラハで、今年5月末広島で「核兵器のない世界」を希求すると表明しました。わたしたちには、「連帯して協力し、相互連携と相互依存のもとにもっとも弱い立場にある兄弟姉妹を思いやり、共通善を守る力」（「2016年『世界平和の日』教皇メッセージ」2参照）があるはずで、そのような人間の力と神の恵みによって、世界から核兵器だけでなくあらゆる武器と暴力をなくすという高い理想を実現していきたいものです。国内でも、毎日のように起こる殺人事件、国籍や文化や性などによる差別、DV、ヘイトスピーチ、セクハラやパワハラなどに無関心ではいられません。絶えず適切な対策を講じる必要があります。また、日本国民を暴力の連鎖に巻き込むにちがいない安全保障関連法や改憲の動きにも警戒を怠ってはなりません。

ところで、「平和」の原語であるヘブライ語の「シャローム」は、1) 繁栄、成功、2) 無傷の状態、3) あいさつ用語、4) 福利、健康な状態、5) 平和（公的、私的）、6) 友好、7) 解放、救い、を意味しています。つまり「平和」は、一人ひとりが自らと他者のいのちの尊厳を大切に、神および他者と友好的な関係を築きながら、充実した生活を送ることにあると言えます。フランシスコ教皇様が指摘しておられるように、わたしたちは、誰一人排除することなく、互いを愛（いと）おしみ、赦し、受け入れるよう努めなければなりません。わたしたちは皆、神のいつくしみに包まれているからです。誰かを排除したり、支配したり、軽視したり、差別したりするところに平和はありません。こころとからだ、仕事と家庭生活、特に神との関係と人間関係を、より充実した幸せなものにするよう努力することによって、平和を自分たちの足元からつくることは皆ができることですし、またしなければならぬことです。それが世界平和の実現につながることを確信しつつ。

愛と平和の神がわたしたち皆と共にいてくださいますように（二コリント 13・11 参照）。

2016年7月7日

日本カトリック司教協議会 会長

カトリック長崎大司教区 大司教 ヨセフ 高見 三明

「真の平和を求めて」

清川泰司

「さまざま道に立って眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ
どれが、幸いに至る道か、と。
その道に歩み、魂の安らぎを得よ。」

(エレミヤ 6-16)

昨年9月、安全保障関連法が成立し、集団的自衛権の行使が可能になった。今年の春まで、私は東京のカトリック中央協議会で働いていた。テレビの国会中継を観て、居てもたっても居られなくなり、気がついたら国会議事堂前という日々が続いた。私を、国会議事堂前まで足を運ばせたのは、一つの忘れられない記憶である。

今から10年ぐらい前、私は大阪教区のある教会で司牧をしていた。日本山妙法寺の平和行進の一行に、教会を宿として提供した。その平和行進の参加者の中に、元アメリカ兵の青年がいた。彼は、はじめ私に屈託のない笑顔で挨拶をした。しかし、私がカトリックの司祭と知ると、彼の態度が一変した。顔を曇らせ、私を睨みつけた。なぜ、彼が、私を司祭だと知って、態度が一変させたのか。

平和行進の参加者から彼の話聞くことになった。彼は9・11の後、志願兵としてイラクに派兵された。帰国後、彼は、重度の精神的病にかかり、アメリカで日本山妙法寺の平和行進に出会い、そこに参加することにより、なんとか精神を保っているという。彼が志願兵となっただけは、信頼する司祭に志願兵になることを相談し、反対されることなく、むしろアメリカのために志願兵になることを勧められたことだった。彼は、その司祭が、なぜ志願兵になることを止めてくれなかったのかという思いがあったようだ。この話を耳にし、同じカトリック教会の司祭として、心が痛かった。私を睨みつけた目は、戦地で何を見、何を体験したのか、その目が、私を国会議事堂前へ向かわせた。

アメリカでは、帰還兵が精神的病を抱え人生を生きなければならない若者を生んでいる。また、戦地では、多くの民間人が殺され、その理不尽さに恨みを抱き、報復をしようとする若者も生んでいる。その現実を、他人事と受け止めるような人々、その裏で、利権をむしばむ人々が作ろうとする平和。これが本当の平和なのだろうか？戦争により苦しむ人々と共感し、なんびとも犠牲にならない、そして暴力を手段としない真の平和を生き、追求する者が増える事を、神が願ってやまないと、私は信じている。

(カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピスの今年の暑中見舞いから転載しました)

平和旬間の日感想

三笠教会 中尾のり子

今年の8月6日(土)、71年前広島に原爆が落とされ日に平和旬間の行事として横須賀のドブ板通りからヴェルニー公園を経て横須賀の軍港をながめました。フィールドワークなどほとんど参加したことのない私はちょっとドキドキしながら中央駅の集合場所に行きましたが、三笠教会の中高生女子や川嶋元委員長が迎えてくれ、うれしくホットしました。そこへ他教会からの方々がぞくぞく参加してこられました。中央駅からのグループは20名だったのでしょうか・・・、JR横須賀駅に集まったグループはそれより少なめだった様に思います。

ドブ板通りでは商店代表として越川智未さんの御父さまのお話を伺いました。戦後よきにつけ、あしきにつけアメリカの基地(ベース)の影響を強くうけた場所です。最近は大イオン(今はイオン)が出来、新しい人の流れも出来アメリカを体験出来る町として観光客もあつまっているそうです。ヴェルニー公園では横須賀で平和活動をしている(おむすび船団)の方がアメリカの軍港として横須賀が大変重要な役わりをはたしているという話しをして下さいました。軍艦は飛行機ではこべないので、どうしても横須賀にアメリカの軍艦をおいておく必要があるらしいのです。原子力空母レーガンがこの日も海上自衛隊の艦艇の間から姿をみせていました。日本がそして横須賀がアメリカの今も続けている戦争に深くかかわっている事実を今さらながらつきつけられた暑い1日でした。

平和のために私達は何をしたらよいのか考え続けながら平和がおとずれるように祈るばかりです。



Photo by 平和の使徒推進本部

2016年カトリック平和旬間

折り鶴に願いを込めて

三笠教会 榎本貞子

8月6日(土)の平和旬間行事開催教会の担当を頂いて、関係者と神父様、三笠教会のアダム神父様、そして教会委員と数回打ち合わせを開きました。当日を迎えるにあたり、基地の街横須賀、そして教会はフェンスの金網の隣接、改めて三笠教会が特殊な場所にあると思いました。

当日は、基地の開放日でもあり、又、横須賀の大きな行事の一つの花火大会とも重なり、教会の前の通りは一日中人通りが絶えることがありませんでした。その中、JR横須賀、京急中央駅の二駅からフィールドワークの参加者は歩きました。他県からの方もいて、教会に着き皆さんが体調を悪くしないか、少しでも暑さをしのいで頂こうと冷たい水とおしぼりを用意しました。そんなくらの事でおもてなしすることが精一杯でした。午後の講演、司教様のごミサと皆さん熱心に参加していただきました。

25年前の8月9日、私は長崎の祈りに参加し、教会などで祈りを捧げました。又、7年前は8月6日の広島原爆忌念日に参加し、今でもその日を思い出します。その時、子供たちと折り鶴を折り、祈りを捧げてきました。この度、私に出来ることとは思ひ、小さな折り鶴に一つ一つ祈りを込めて折り、大きなパネルに書いた「平和」の字の上に色とりどりの鶴をはりました。聖堂に入る参加者には「平和」の大切さをきっと心に刻んでくださった事と思います。

暑い一日、基地の街横須賀、その特殊な街に建ち、基地とは金網で隣接する三笠教会で、司教様司式による平和旬間のミサを参加者一同捧げることができましたことを神に感謝申し上げます。



2016年カトリック平和旬間

平和旬間行事を終えて

三笠教会 宮本清美

2016年8月6日の横浜教区平和旬間行事が三笠教会と決まり、1月14日に第1回目の打合せが始まりました。

1981年、教皇ヨハネ・パウロ二世は「過去を振り返ることは、将来に対する責任を負うことである」と述べられました。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もっとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した8月6日から15日までの10日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。（『協会情報ハンドブック 2013』より）

横浜教区から、平和旬間行事担当の河野淳神父様（沼津教会）と横浜教区正義と平和協議会事務局の前川徹様（菊名教会）が出席され、アダム神父様、教会委員数名とで、どのような平和旬間行事にするか、求められているのか、話し合いました。その後数回話し合いを進めて参りました。

テーマは、横須賀から平和を考える ― 街と基地と教会と ― 当日は午前10時のフィールドワークから始まり、どぶ板通り、ヴェルニー公園を歩き、基地の前を歩いて教会に向かいます。基地の街横須賀、そしてその基地と隣り合わせにある三笠教会。横須賀に住む私たちには当たり前風景です。参加された方々はどのようにお感じになったでしょうか。

午後からは、長崎大司教区 高見三明大司教による、～平和を自分たちの足元から～という日本カトリック司教協議会会長談話が発表されました。その後「横須賀の文化遺産を考える会」代表の長浜つぐお氏の講演とDVD上映、横須賀で平和運動を続けている新倉裕史の講演が行われ、梅村司教様司式のごミサと続きました。長浜つぐお氏のDVDでは横須賀の歴史、三笠教会の歴史が紹介されて、改めて米軍基地と三笠教会との深い関わりを感じました。平和運動を続ける新倉裕史氏の講演では横須賀基地の現状が詳しく語られ、考えさせられたことでした。

平和の集いの開催にあたって、講演の方への依頼、ポスター・チラシの作成、案内看板作り、フィールドワーク案内の方の依頼、会場準備、お茶の用意、救護の方の依頼等々多くの方のご協力を頂きました。冷たいお茶やおしぼりのお手伝い、ごミサのお手伝いをしてくださった大津教会と三浦海岸教会の方々に感謝します。第1回目の打ち合わせから何度も足を運んで下さりご助言頂いた、河野神父様、前川様に感謝します。

神のお恵みのうちに行われ、集まってくださった多くの方々、平和の集いに参加した私たちがこれからも平和を考え続けていくことができますように。

愛と平和の神がわたしたち皆と共にいてくださいますように（二コリント 13・11 参照）



大津教会、三浦海岸教会の皆さま、
お手伝い頂きありがとうございました。

2016年カトリック平和旬間

平和の集いを終えて

三笠教会 河田 亮

午前中のフィールドワークのスタッフとして平和の集いに参加させて頂きました。横須賀駅に隣接したヴェルニー公園からドブ板通りへと横須賀観光の名所を巡りながら、ヨコスカ平和船団の市川氏、ドブ板通り組合会長の越川氏の説明を聴かせて頂きました。普段見慣れた場所でしたが基地の街、横須賀をあらためて実感することができました。そしてフィールドワークを終えて教会に戻る時に、これも毎日の様に通る教会に隣接した基地（ベース）の入口を見て、三笠教会はアメリカの基地に隣接しているという事実を今更ながら再認識しました。この様な場所にある三笠教会だからこそ、もっと平和について考え、行動していく必要があるのではないのでしょうか。少なくとも今回開催した平和の集いで終わりという事ではなく、来年以降も平和旬間には三笠教会として出来る行事を継続していければと思います。





2016年カトリック平和旬間

カトリック横浜教区平和の集いに参加して

大津教会 小嶋 武志

去る8月6日(土)、カトリック横須賀三笠教会で開催された2016年横浜教区平和旬間行事に参加しました。昨年の平和旬間は鎌倉雪ノ下教会で開催され、講談師の神田香織さんを招いての「福島への祈り、ある母子避難(原発被災者)の声」という講談が演じられましたが、今年は横須賀が開催地と決まり、『横須賀から平和を考える一街と基地と教会と一』というメインテーマが決まり、準備の段階から私も側面協力をしてきました。

一昨年来からの憲法違反の集団的自衛権行使容認の閣議決定を受けての安保法制の改訂等に対して、昨年4月戦後70年を迎えるにあたって、「平和を実現する人は幸い—今こそ武力に寄らない平和を」という日本司教団メッセージが発せられました。引き続いて今年4月には「今こそ武力によらない平和を一安全保障関連法の施行にあたって—」という日本司教団公式文書も発せられました。これらの中で司教団は私たちカトリック信徒に向かって、「わたしたち一人ひとりがこの時代を生きる一人の人間として、またキリスト者として、今何を選び行動すべきかを真剣に考えていきましょう。そして、武力に頼らず、相互の信頼に基づく平和をともに祈り求めてまいりましょう。」と呼びかけてきました。

そして今年の平和旬間に当たっては、日本カトリック司教協議会会長談話で『～平和を自分たちの足元から～』というメッセージが発せられました。そこで「横須賀から平和を考える…」ということは、私たちの目の前の現実の社会問題から目を逸らしてはならないという課題が私たちに与えられたのでした。教皇フランシスコは2016年「世界平和の日」(1月1日)メッセージで「無関心に打ち勝ち、平和を獲得する」と世界のすべての人に呼び掛けられ、その中で「わたしたちは皆、いづくしみの特別聖年の精神のもとに、自分の生活の中にいかに無関心が表れているかを認識し、生活環境を自分の家庭、近隣、職場から改善するために具体的な努力をするよう招かれています。」と私たちに語られました。

私たちは今年の平和旬間行事に当たって、時のしるしとしての現実社会を真正面から見据える視点から、第1部・横須賀基地フィールドワークを行いました。午前中からの猛暑の中、参加者は約50名程でしたが、二組に分かれての横須賀基地周辺そしてどぶ板通りを見学して歩きました。当日は海上自衛隊の基地開放日と重なり、付近のJR横須賀駅、ヴェルニー公園、基地見学観光船発着場等々では大変な人出でした。横須賀基地の解説はヨコスカ平和船団おむすび丸船長の市川平氏(昨年11月の日韓司教交流会での横須賀基地見学の際の案内者)が一般の人たちも聴けるようにトラメガ(拡声器)で話しました。原発と同じ原子炉二基を搭載している原子力空母ロナルド・レーガンを含め米軍、海上自衛隊の各艦船が多数横須賀港に停泊している姿が見えました。ヘリ空母「いずも」は見学者で一杯でした。どぶ板通りについてはどぶ板通り商店街振興組合の越川理事長が案内してくれました。

午後からは会場を三笠教会に移して、約250名程の参加者で第2部として①長浜つぐお氏(横須賀の文化遺産を考える会代表)による横須賀のカトリック教会の歴史(DVD上映)、②新倉裕史氏(非核市民宣言運動ヨコスカ/ヨコスカ平和船団)による「横須賀基地から平和を考える」というパワーポイントによる講演があり、世界の紛争地への軍事力の発進基地としての横須賀の役割が語られ、今後ますます日米軍事同盟が加速する方向にあることが警鐘されました。そしてその後③梅村司教司式による平和旬間ミサが行われました。

集団的自衛権行使の実現のための安全保障関連法が成立した現在、今年の秋には南スーダンに自衛隊員が「駆け付け警護」という最も危険な任務に派遣されようとしています。私たちキリスト者は自らの足元の社会問題に真正面から向き合い、平和の実現に取り組みその責任を果たせるよう祈りと行動が求められています。正に「いつくしみの特別聖年」に当たっての私たちの実践だと思えます。いつくしみの実践を外に出向いて行きましょう。



ヴェルニー公園
出典：横須賀市情報サイト



横須賀港（本港地区）横須賀港の歴史は慶応元年の製鉄所建設に始まる。その後横須賀造船所と改称され、明治 17 年以降、横須賀海軍工廠が設置されるなど、軍港として発展を遂げる。戦後は、海上自衛隊、米海軍が利用している。

画面右側および左側の島は米軍提供財産で、手前左側が海上自衛隊。

手前右側がヴェルニー公園。

資料出典：横須賀市ホームページ

2016年カトリック平和旬間

平和旬間のフィールドワークに参加して

三笠教会 中高生会

滝川 愛李紗

今回の平和旬間で私は、「平和を実現する為には言葉だけではなく、行動に移さないといけない」ということを感じました。これからも自分の周りで困っている人がいたら手を差し伸べられるように、少しでも平和を実現する為には、身の回りの小さな事から行動に移していきたいと思いました。

河田 亜美

自分の生まれ育った街について市川さんや越川さんのお話を聴くことで、今まで全然知らなかったことを色々知ることができて、今まで以上に横須賀という街に興味を持つことができました。とても良い経験をしました！ありがとうございました！

高橋 ノア

初めて平和旬間の行事に参加し、普段から見慣れている場所でも、じっくり見ながら歩くことによって「こんなお店もあるんだ」と沢山の発見があり、ドブ板通りの名前の由来等、後学になりとても楽しかったです。

日々、日常の雑多に追われ、祈りを忘れがちですが平和を求める者として今、出来る事、やるべき事を感じながら過ごしていきたいと思いました。

安本 百合恵

今回、多くの方がいろいろな所から参加されているのを見て、こんなに多くの方が平和に対して思いを寄せているんだな、と思いました。一方、今度は自分たちが平和を作っていく番だなと改めて考えさせられました。

とても暑い日でしたが、どぶ板通りの歴史や、原子力空母のことなど、普段横須賀に住んでいてもなかなか学べないことを知ることができました。

尾島 比奈子

フィールドワークから帰ってくると、冷たい飲み物やおにぎりを用意してくださっていて、三笠教会の方々の暖かく優しい気持ちを改めて感じました。

また、たくさんの司祭がいらっしゃるミサで侍者をするのは初めてだったのでとてもよい経験になりました。暑い1日でしたが、気持ちの良い汗を流すことができました。

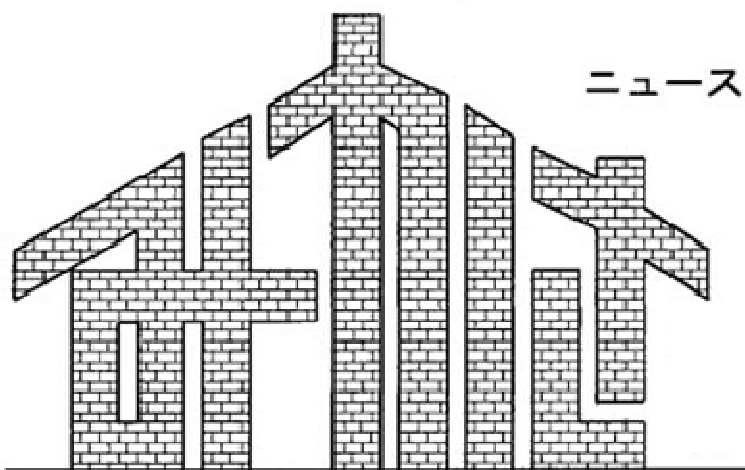


中高生会の皆さま、暑い中フィールドワークのお手伝いありがとうございました。皆さんの笑顔に癒されました。

平和の集いアルバム







特別号

発行日：2016年11月27日
発行者：カトリック横須賀三笠教会
TEL：046-823-0042
FAX：046-823-1031